

「奥中山学園」の開設に伴い、採用されたのは30歳の時だった。20代は民間企業で働き、福祉や障がい者に全くの無知。毎日が手探り状態の中で、無我夢中で子どもたちと関わっている内に、見えない壁を感じるようになっていった。「こんなに一所懸命やっているのに」と苛立ちの中で時が流れる。しかし、その原因が自分の心にあると知らされたのは、2年目の夏の職員研修の場。

「健康者は障がい者に対して『あなたが障がいを負って下さったから私は健康者ですべき立場』。さすがに、鈍感な私も目から鱗が落ち、仕える者になろうと接し始めた。いつの間にか壁は消えていた。そこから、職員としての本当のスタート

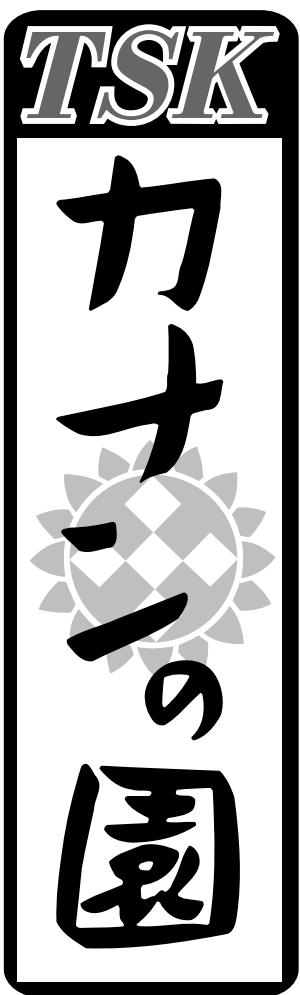
1973年奥中山学園
第1回入園式にて
(右から3人目が工藤さん)。



そ、「天の神様は君たちのことを無条件で愛しているんだよ」と伝えなければいけないが、子どもたちと毎夕礼拝の時を持ちたいと職員会議で提案したが、猛反対にあい実現できなかった。そのことが、牧師になる一つのきっかけとなったのだが、私が去った後も「カナン」の園」全体に、今もキリスト教精神が脈々と受け継がれている。私にとって、これ以上の喜びは無い。

「カナン」の園」に寄せて

元奥中山学園長
工藤 輝雄 (1973.4~1988.3在職)



113

No.113
発行日/2014年7月15日
編集/社会福祉法人カナン
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net
E-mail/honbu@canaan-jp.net/

編集者 社会福祉法人カナン
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361-026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会(略称TSK)
〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松二丁目四一〇 頒価百円

●お知らせ

●「スプリンクラー整備事業 完成報告」

他県でグループホームやケアホームの火災があり、尊い命が失われたことを受けて、国及び岩手県の補助を頂き、奥中山地区内にあるグループホーム16棟のうち、補助対象となる13棟にスプリンクラーを設置いたしました。障がいの重い方々も地域で暮らすことをめざして入所施設を閉鎖し、グループホームでの暮らしへと進めてきましたが、これでまたひとつ「安心」が整えられたこととなりました。自己資金の一部を皆さまからの寄付金を充てさせていただきました。感謝して報告いたします。

●「共に働く仲間を求めています! (2015年度新規採用職員募集)」

社会福祉法人カナンは、2015年度新規採用職員の募集を行っています。仕事の内容は、社会福祉法人が利用者の方々の生活面や労働、日中活動などを支

援する職員として、生活支援員、職業指導員、相談支援専門員等で、学校法人は特別支援学校(高等部)である三愛学舎の教諭です。いずれも若干名の募集となります。詳しい内容などについては、カナンは園事務局へお問い合わせいただく他、ホームページにも順次掲載いたしますので、ご覧ください。

人と人がつながり、共に生きる社会を実現していくことは決して簡単なことではありません。でも、だからこそそやがりのあることだと思います。カナンは園の願いに共感し、働きたいと思う方を求めています!

●「お詫びと訂正」

前号巻頭言の齊藤芳弘理事の表題及び文章の中に、「カナンは園との歩み40年」とありますが、50年の誤りでした。編集者の思い込みによる誤植です。また、養護学校義務化を1997年と表記してしまいましたが、1979年の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

●「訃報」

社会福祉法人カナンは園評議員工藤繁氏が4月26日に永眠されました。絶えずカナンは園のことを思い、貴重なご助言を多く頂いておりました。生前のお働きに感謝すると共にご家族へのお慰めを心よりお祈りいたします。

あとがき

障がい福祉分野では国の制度変更が続いていますが、この年度替りにもグループホームとケアホームの一元化という変更がありました。名称はすべてグループホームに統一。そしてそのグループホームの夜間支援体制について、カナンは園のように宿直で対応している場合は非常に大きな減算となりました。障がいの重い方も支援を受けながら地域生活を、との願いは非常に厳しい状況となりましたが、「共に生きる社会の実現」への道を求め続ける者たちでありたいものです。(MS)

Scope & Spot



三愛学舎本科2年の横濱道民君。朝、登校してくるなり、「おはようございます!」の大きな声が校舎いっばいに広がり、皆に元気を与えてくれます。朝のランニングでは、コース脇に咲いている花を摘んで来て、笑顔で職員に見せます。道民君の笑顔と元気なあいさつは周囲にも花を咲かせてくれます。

●機関誌「カナンは園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナンは園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

社会福祉法人カナンは園

カナンは園法人本部

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.net
E-mail/honbu@canaan-jp.net/

- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園 ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 ゆいまる ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび ☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3406
- 生活介護事業所 小さき群の里 ☎0195-35-3080 FAX 0195-35-3080
- 共同生活援助事業所 ののさわ(グループホーム1~6) ☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
- 生活介護事業所 ヒソブ工房 ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 共同生活援助事業所 HANA(盛岡地区グループホーム1~5) ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 特定相談支援事業所 らぼーる ☎019-656-6863 FAX 019-656-0553

- 生活介護事業所 シャローム ☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884
- 就労継続支援B型事業所 ウィズ ☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
- 多機能型事業所 福祉工場カナン牧場 ☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
- 共同生活援助事業所 美空(グループホーム1~10) ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 居宅介護事業所 れもん ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 多機能型事業所 となんカナン ☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
- カナン市場(カナンは園商品一括取扱所) ☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

学校法人カナンは園

三愛学舎(特別支援学校高等部・知的) ☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

本誌は再生紙を使用しています。



カラオケはいつも人気の定番メニューです。



県立美術館で芸術鑑賞。そのあとのディナーも楽しみの一つです。

「ほっこりの会」はヒソプ工房職員による私設ボランティア団体です。最初は家族支援（レスパイト）を目的に作られた団体ですが、利用者の皆さんにとっては泊りがけ行事の様で楽しい活動の一つとして定着していきました。現在では、主に年12回程度、アフターファイブの余暇支援活動として行っており、利用者の皆さんの楽しみと家族へのレスパイトの2つの顔を持っています。

皆さんにとって、「ほっこり楽しい活動」というのが定着していて、ほっこりが行われる時期になるとその話でもちきりです。その時々複数の活動から自分の好みや興味のある企画を選べ、それぞれが楽しく参加できるよう、温泉、カラオケ、料理、

運動、映画鑑賞、市内散策等、バラエティ豊かで魅力あふれる活動を用意しています。活動中は普段の作業の時とは違う顔が見られますし、職員も一緒にになって楽しんでいきます。共に過ごすこの時間は、思い出を育み、様々な経験を重ねる機会ともなっています。

ほっこりの会のもう一つの役割は、冠婚葬祭やご家族の入院等の緊急性の高い時に、公的なサービスに繋がられなかった際の最後の砦として利用できるものです。本当に困った時に、気心が知れた者として支える役割を担っています。

制度的な裏付けを整えながら、素敵な時間を共有していけるように考えています。（小林康忠）

このように私が現場にいたころの「当たり前」が今の「当たり前」ではない、そういう時代に授業の中でも必ず話すことがあります。

「ノーマライゼーションの「ノーマルな生活」とはいったい何だろう。もしかすると今世紀内に彼らにノーマルな生活など提供できないかも知れない。しかし皆さんの支援が、彼らに限りなくノーマルに近い生活を提供できなければ、彼らはこの時代に何を目的に生きていけばいいのだろう。ノーマライゼーションは言葉と



高橋正之先生

して存在して意味があるのではなく、ノーマライゼーション社会の実現こそ皆さんの仕事なのです。

過去現場にいた私としては、かなり大口ですが、福祉の単位が「身近な地域」となった今こそ、もしかしてノーマライゼーション社会の実現へ向かう契機になってくれるのでは、と期待もあります。カナンの園は以前から町全体を一つの「地域」として、多くの取り組みを行っておられます。その地域の中で、障がい児者一人ひとりが役割を持ち、そこに暮らす全ての人々が支え合いながら生きていく、そんな地域づくりを「もりい卒のカナン人」も貢献してもらいたい、そう願って止みません。卒業生の皆さん、がんばってください。

「もりい卒のカナン人」の皆さんへ

社会人、そして障がい者福祉の未来を担う「もりい卒のカナン人」の皆さんへ

盛岡医療福祉専門学校 教務課長 高橋正之

「るんだるんだ」



ピアノも自由に弾けます。



優しい手触りの木のおもちゃがいっぱいあります。

奥中山学園に「るんだるんだ」が開所してからおよそ9カ月が経ちました。いろいろな本やおもちゃ、遊具があり、子どもにはもちろん大人でも魅力を感じ、親子で一緒にゆったりと楽しみ、のんびりと過ごせる場です。

主に毎週水曜日を開放日としています。が、少しずつ足を運んでくる親子が増えています。いつでも子どもたちがのびのびと遊ぶことができ、想像を膨らませながら、沢山のおもちゃに興味を示し、「楽しい」と思える場になればと願っています。

また、子育て真最中のお母さんたちの安らぎの場になり、悩みを共感し、励まし合うことで、誰かとつながっていることの安心感を持つことができると思っています。

いつでも気軽に遊べ、「また来たいね!」と思えるような遊びの場となり、親子の良い関係が深まればと願っています。私たちも、お母さんたちの様々な声に耳を傾け、子育てのお手伝いが少しでもできたらと思っています。

（るんだるんだ担当 川上幸恵）

専攻科での「ゼミ」

三愛学舎専攻科では、「対話による学び」として昨年度から「ゼミ」に取り組んでいます。このゼミは、1グループ5名の小集団で運営し、参加するメンバーの意見や考えを大切にします。生徒同士で積極的に話し合い、内面の成熟を図ることを目指します。今年度は、専攻科1・2年生10名の生徒が2つのグループに分かれ、テーマに合わせて意見を話し合いながら学びを深めています。

生徒が主体でテーマを決め、その流れにそって行われるゼミは、回数を重ねる毎に活発になっていきます。

高等部本科時代に培われた仲間同士の関係や団結力と、専攻科で学んだ働くことの意味や将来について考える経験が、お互いに理解し合い、



「今日のテーマは…」生徒同士の活発な話し合いが繰り返されます。

自分たちで作り上げていくことにより、有用感を生み出します。

まだ、始まったばかりの活動ですが、今後の展開と生徒達の成長が楽しみです。（専攻科 澤口俊裕）

みなのかの

けがりまつりごっこ

けがりまつりにがくどうのともだちと行きました。

こひつじのペーちゃんとおそぶのがたのしみでした。わたしは、ペーちゃんも赤ちゃんのときにだっこしたので、まただっこしたいとおもいました。ペーちゃんとおかけっこをしたり、あたまをなでてたのしかったです。だっこをしたら大きくなって、だっこできませんでした。

おにいさんが大きなひつじのけがりをしているのを見ました。
ひつじがじっとしてびびくりしてました。ひつじのけがが大きくなしくてもうふみたにふわふわしてました。あつかったのでひつじがすずしくなりました。たのしかったです。

（奥中山小学校2年 まいた ももか）



ペーちゃんと記念撮影（左から4人目がももかさん）。

楽しいよ市

よ市は、4月から11月まで、毎週土曜日3時10分から7時まで販売のお手伝いをしています。よ市は、父、母、小さな群の里の原田さんのおかあさん、当番の人と一緒にやっています。よ市は、20年になります。晴れた時は、すぐパンが売れます。雨が降った時は、パンが残ってしまいます。でも、頑張つて売っています。お客さんから、パンがおいしいよと言われるとうれしくなります。僕は、パンの袋づめのお手伝いをしています。皆様も、ぜひ、盛岡市材木町よ市に遊びにいらしてください。これからはよ市のお手伝いを続けて頑張つていきます。

（ウイズ 高橋勲）



顔なじみのお客さんがいつも楽しみに待っています。

エビの会活動ごっこ

今年度のエビの会の研修の一つとして「携帯電話の扱い方」について学ぶことになりました。私は、今はプリペイド携帯を使っているの、使い過ぎや、迷惑メールなどは無いけど、前の携帯電話には迷惑メールが来ていて、来たら消すようにしていました。だけど、これはいけないものとかわかっていながら、見たくなくなる気持ちもあつて、気持ちを抑えるために消していました。あとは、アプリで使い過ぎとなつていないかなど、この研修の中で、みんなで携帯電話の正しい使い方について学ぶことができると思います。

この研修以外にもエビ委員として1年間後輩2人をうまくサポートできればいいと思います。
（カナン牧場エビ委員代表 三上美幸）



2014年度のエビ委。左から、齋藤翔太さん・齋藤美鈴さん・三上美幸さん・工藤靖明さん。

0歳からの親子教室 tetotetoプチ幼稚園

とんかんカナンのオープンと同時に、カフェ2階のお部屋をお借りして、月に10回程親子教室を行なわせて頂いております。子育てをより楽しく過ごせるよう、コミュニケーション法「ベビーサイン」、ふれあいながら体を動かす「親子ヨガ」、日本のもで作られたおもちゃの紹介や木と共に育つ環境作り「木育」などの活動をしています。とんかんカナンの建物にも木が使われており、カフェの元気が出る黄色い壁とかわい絵本コーナーがとても居心地良く、そこで食べるおいしいパンとスイーツが疲れを癒してくれると好評です。

（tetotetoプチ幼稚園代表 赤坂あけみ）



みんな健康やかに育ちますように…。

ことばひろい 第11回

「できた！」小さな気付きを大切に…

ウイズ副施設長 南館晋也

「ウイズ」は、2000年10月に通所授産施設「シャローム分場（カナンの園リサイクルセンター）」として、3名の利用者の方を迎え開所しました。そのうちの一人Aさんは三愛学舎卒業後、シャロームで半年働いた後ウイズのメンバーとなりました。私も今まで経験のない福祉事業所の指導員として一緒に働き始めました。当時Aさんは、周りの様子を見ながら一人で過ごすなど、物静かな印象でした。ある日の作業中、Aさんがペットボトルのラベルがいついなくなった袋の口を

只々一緒に向き合い練習するだけの日々でしたが、できたことで自信を持ち、自分で結んだ袋を集積場所に持つてくる誇らしげな顔がとてまぶしく感じられました。他の人から見れば、小さなことかも知れませんが、Aさんにとっても私にとつてもとても大きな励みになる出来事でした。

それから数カ月後、シャローム・ウイズの広報誌「KAERU」たより（毎週金曜日発行）に、Aさんの生い立ちをお母さんに書いていただいたことがあります。

自ら結ぼうとしていました。それまでは他の人にやってもらっていたのですが、自らやってみようとしていたのです。しかし、初めてのことで中々うまくできず、それでも何とか頑張っていました。

その日から、一緒に結ぶ練習が始まりました。持ち手の長さを調整してみたり、どうしたら解けないように二重に結べるかを繰り返し2人で練習しました。必死に取り組みAさんとの練習は毎日続き、数週間後ついに自分で結ぶことができました。「できた！」と思わず声を掛け合っていた時の満面の笑みは今でも忘れることができません。支援者として未熟な自分は、

小さい頃は学校に行っても中々教室に入れなかつたり、泣き虫だったこと。一方で、運動会ではリレー選手になったり、応援団をしたり。自転車にもいつの間にか乗れるようになった等のエピソードも書かれています。そうしたAさんを知り、何事にも一生懸命に取り組み姿勢があつたからできたのだと改めて感じました。

日中活動の場で目の前のことだけを見ているとは分からない、その方の生い立ちや育ててきた環境など、その背景を知り理解することで見えてくるものがある、との話は聞いていましたが、当時の自分にはあまりよく理解できていませんでした。

つてほしい」と願つての行動と捉えると、こちらの関わり方は変わってきます。言葉にならない思いをどれだけ汲み取るこ



とができてくるのか、様々な場面できかに向き合うかは結局は自分自身に問われていることでもあると感じます。

就労を中心とした日中活動の場であるウイズで、「働くこと」は楽なことではありませんが、暑い中、汗を流しペットボトルや発泡スチロールの処理にあたります。時には土埃にまみれながら近隣の農家の畑でレタス収穫後のビニールがし作業も行います。冬は氷点下15度以下になる日もある奥中山ですが、雪かきから始まり寒さに負けずにそれぞれの作業へと移ります。外部での鶏舎清掃作業は完了期限もあり、それまでに終わらせなければなりません。利用者も職員も一緒に働き、一人では大変なこともみんなで協力して取り組むことで乗り越えてきました。周りの頑張る姿に後押しされ、作業に向かう姿や声を掛け合う姿、そして終わった時の達成感を共に味わう姿など、様々な場面に出会ってきました。カナンの園の基本理念にある「共に学び、共に育つ」。まさにこの十数年は自分にとって皆さんに支えられながら、共に学び、共に成長できた時間でした。

慣れと共に小さな変化に気付くことのないよう、一人ひとりの希望や願いを感じ取れるような感性と、そのために何ができるかを考えられるよう、日々努力していきける自分でありたいと思います。これまでの出会いと一緒に働く時間を与えられたことを大切に、あの時の「できた！」の一言と笑顔をおぼろげに忘れないように…。

2014年度の事業

1. 運営方針

2013年度、カナンの園では創立40周年記念事業のまとめとして40周年記念誌を発売しました。これまでの歴史を振り返り、関わる者が大きな感謝に包まれつつ新たな歩みを始める決意を持つことが出来ました。先達の創立の理念に込めた想いを受けとめ、時代の変化やそれに呼応する様々な環境の変化に対応していく組織と人材を整えていくことが求められています。理事会の責任の下、チャブレンの働きの充実、現場管理者の連帯、重層的多面的な研修プログラムの構築、職員の福利厚生と健康管理などを運営の重点項目とし、現場に立つ一人ひとりが確かな理念と実践力を手し、喜びと感謝の気持ちをもって利用者の方々と日々歩める組織になりたいと願っています。

カナンの園は運営する組織が多岐に亘り、両法人を合わせると200名を超える職員によって構成される組織となりました。事業所間の物理的な距離に併せ、事業による職種や職責、労働時間帯の異なる職員集団が互いを連帯の意識を持って認め、支え合う関係性を築いていくと共に、保護者会や支援者、関係各所との連携を重視した取り組みが重要となります。法人の歴史においても、法制度においても変革期が続く中で1年となりますが、心をひとつにして歩みを進めていきます。

2. 運営の重点

- ① 組織運営の強化を図るために次の方策を取る
 - ① 法人本部機能を強化し組織運営の見直しを行い、次年度に計画している部署制への移行準備を進める
 - ② 理事会と現場とが課題を共有し、対応できる運営を行う
 - ③ チャブレンの働きを充実させる
 - ④ 人材の確保と育成を行い、実務技術力の向上を図る
 - ⑤ 健康管理体制と安全管理、防災体制の充実を図る
- ② カナンの園第6次将来計画（構想）を基本として、総合的な観点から事業計画スケジュールを策定する
 - ① 旧入所更生施設の建物と土地の利用方法について具体的な立案を行う
 - ② 中山地区、盛岡地区での利用者ニーズ、各事業所の役割を整理し、法人全体の課題として捉えて、事業展開の方向を短中期的に具体的なたたき台を検討する
 - ③ 法人全体の製品販売を総合的に取り扱う部署（カナン市場）のさらなる充実を図り、販路拡大や顧客ニーズに応じていく体制を再吟味する
 - ④ 相談支援事業の安定と充実を図る
 - ⑤ 障がい福祉を基盤とするカナンの園が、地域の関係諸機関と連携し、新たな地域社会を構築していくことをめざす

社会福祉法人カナンの園役員（担当）

理事長
及川忠人（人事、医療、将来像検討）

理事長代理
中条和哉（人事、礼拝、医療、将来像検討、となんカナン・三愛学舎担当）

本間邦彦（安全管理、シャローム・ウイズ・支援センター担当）

理事
佐藤真名（事務局長、人事、将来像検討）
澤谷常清（三愛学舎校長、人事、礼拝、教育研修、広報、将来像検討）
佐藤研司（小さき群の里・ののさわ施設長、人事、安全管理、将来像検討、齊藤芳弘（広報、組織、将来像検討、法人本部・カナン牧場・支援セン

タリ担当
佐藤孝悦（安全管理、教育研修、ヒソプ工房・シャローム・ウイズ担当）
坂水かよ（組織、奥中山学園・ヒソプ工房・となんカナン担当）
真山重博（広報、ののさわ・小さき群の里・カナン牧場担当）
原田千恵（組織、奥中山学園・小さき群の里・ののさわ担当）

監事
花松行雄
菅野督巳
秋山信愛
中条和哉

社会福祉法人カナンの園施設管理者

●法人本部
事務局長 佐藤真名
事務長 伊藤繁夫

●奥中山学園
園長 藤村正治
副園長 岡崎俊彦

●小さき群の里
施設長 佐藤研司
副施設長 中嶋隆

●ののさわ
施設長 佐藤研司
副施設長 服部勉

●ヒソプ工房
施設長 阿部孝司
副施設長 鈴木直人

●カナン牧場
施設長 山崎敏夫
副施設長 浅沼俊一

●シャローム
施設長 薄正仁
副施設長 向井由祈

●ウイズ
施設長 薄正仁
副施設長 南館晋也

●生活支援センター
センター長 山館憲行
副センター長 戸田清志

●となんカナン
施設長 高橋正彦
副施設長 猪又平

学校法人カナン学園
カナン学園役員
理事長 猪苗代正憲
理事 本間邦彦 及川忠人 齊藤芳弘
監事 角谷晋次 澤谷常清 栗田良実 花松行雄

学校法人カナン学園
三愛学舎
校長 澤谷常清
副校長 伊藤和彦
チャブレン 中条和哉

注：
①流動資産額の内訳の内、現金預金は178,063千円、未収入金は自立支援給付2・3月分 104,131千円及び利用料等になります。
②固定資産額の内訳の内、基本財産は、土地72,453千円、建物477,267千円。その他の固定資産として退職共済預け金23,574千円、積立金178,740千円等です。
③事業活動収入の内、寄付金収入は12,407千円（前年比+584千円）内訳（ア）施設利用者指定寄付1,385千円、（イ）法人活動の為の寄付金7,114千円（ウ）施設指定寄付金は722千円、（エ）物品による指定寄付金3,186千円です。

事業活動収支計算書 (2013年4月1日～2014年3月31日)	
事業活動収支の部	
収入（注：③）	652,406,253
支出	580,883,110
収支差額	71,523,143
事業活動外収支の部	
収入	51,259,065
支出	64,127,416
収支差額	-12,868,351
特別収支の部	
収入	22,388,805
支出	21,553,658
収支差額	835,147
当期活動収支差額	59,489,939
前期繰越活動収支差額	213,643,599
当期末繰越活動収支差額	273,133,538
基本金・その他の積立金取崩額	45,000,000
基本金・その他の積立金積立額	45,890,000
次期繰越活動収支差額	272,243,538

社会福祉法人カナンの園 2013年度 決算報告 (単位：円)

1. 社会福祉事業会計

本部会計、奥中山学園、放課後等デイサービスゆいまある、小さき群の里、ケアホームののさわ、HANA、美空、居宅介護事業れもん事業所等の各経理区分を合算したものです。

貸借対照表 2014年3月31日現在			
資産の部		負債の部	
流動資産（注：①）	289,254,826	流動負債	34,021,209
固定資産（注：②）	854,531,303	固定負債	39,824,350
		負債の部合計	73,845,559
		純資産の部	
		基本金	398,317,416
		国庫補助金等特別積立金	212,000,078
		その他の積立金	187,379,538
		次期繰越活動収支差額	272,243,538
		(内、当期活動収支差額)	59,430,564
		純資産の部合計	1,069,940,570
資産の部合計	1,143,786,129	負債・純資産合計	1,143,786,129

2. 就労支援事業会計

ヒソプ工房、シャローム、ウイズ、カナン牧場、となんカナンの各経理区分を合算したものです。

貸借対照表 2014年3月31日現在			
資産の部		負債の部	
流動資産（注：①）	255,187,884	流動負債	16,662,979
固定資産（注：②）	527,355,715	固定負債	38,479,225
		負債の部合計	55,142,204
		純資産の部	
		基本金	113,658,408
		国庫補助金等特別積立金	240,353,028
		その他の積立金	49,300,000
		次期繰越活動収支差額	324,089,959
		(内、当期活動収支差額)	18,627,388
		純資産の部合計	727,401,395
資産の部合計	782,543,599	負債・純資産合計	782,543,599

事業活動収支計算書 (2013年4月1日～2014年3月31日)	
就労支援事業活動収支の部 （注：③）	
収入	185,123,678
支出	184,894,883
収支差額	228,795
福祉事業活動収支の部	
収入	319,292,918
支出	313,279,943
収支差額	6,012,975
事業活動外収支の部 （注：④）	
収入	17,484,442
支出	5,128,821
収支差額	12,355,621
特別収支の部	
収入	2,489,999
支出	2,460,002
収支差額	29,997
当期活動収支差額	18,627,388
前期繰越活動収支差額	309,362,571
当期末繰越活動収支差額	327,989,959
その他積立金取崩額	3,900,000
次期繰越活動収支差額	324,089,959

注：
①流動資産額の内訳の内、現金預金は179,578千円、未収入金は自立支援給付2・3月分及び利用料53,091千円、売掛金11,823千円、他は原材料等です。
②固定資産額の内訳の内、基本財産（建物）は376,668千円、退職共済預け金 140,29千円、積立金49,300千円等です。
③就労支援事業収支差額では、ヒソプ工房-178千円、シャローム763千円、ウイズ667千円、カナン牧場770千円、となんカナン-1,794千円です。
④事業活動外収支の内、支出は、福祉・医療機構借入金（シャローム、カナン牧場、となんカナン）の利息返済及び他経理区分への繰入金支出です。